

# 大阪・九頭神遺跡くずがみ

- 1 所在地 大阪府枚方市牧野本町二丁目・二丁目
- 2 調査期間 第一六八次調査 二〇〇一年(平13)三月～二〇〇三年一〇月

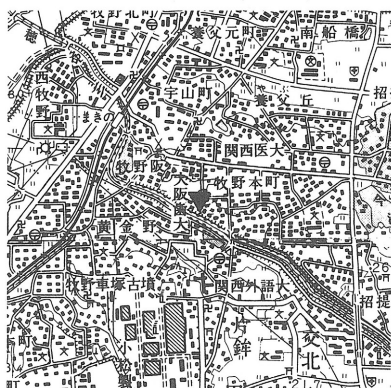
3 発掘機関 (財)枚方市文化財研究調査会

4 調査担当者 西田敏秀

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部・大阪東北部)

九頭神遺跡は交野台地の北西部、穂谷川を眼下に望む台地地形の南傾斜面に立地する。遺跡の中心時期は、飛鳥時代から奈良時代までで、古代寺院九頭神廃寺の存在が早くから知られているほか、鎌倉時代後半から室町時代にかけての遺構・遺物も数多く検出している。

第一六八次調査では、掘

立柱建物・井戸・大溝などからなる鎌倉時代後半から室町時代初頭までの集落の一端が検出された。井戸三〇〇一は、径約三・二m深さ約六mを測る素掘りの井戸で、下層から土器類のほか、曲物を中心に多くの木製品が出土した。その中に一点の木簡が含まれていた。

8 木簡の積文・内容

(1) [1] □ □ □ □

15.5×1.8×2 051

曲物の底板の一部を再利用したもので、片面のみに墨書がある。赤外線写真により四文字以上書かれていることが判明した。二文字目は「そ(尊)」「か」「は(者)」、最後の文字は「様」か「殿」の可能性があるが、確定することはできなかった。なお、判読に際しては、奈良文化財研究所史料調査室のご協力を得た。

9 関係文献

(財)枚方市文化財研究調査会『九頭神遺跡Ⅱ』(二〇〇四年)

(西田敏秀・下村節子)

